

⑥ 6年生 | 「作文指導」 ～思いや願いを～

効果的な書き方を工夫して書こう

3学期を迎え、2ヵ月後に卒業を控えた児童が、小学校生活の最後を書くことになる作文。卒業アルバムや卒業文集などは、卒業の思い出として一生残る作文でもあります。そこで、これまでの作文の学習の中で学んだ技術の必要なものは全て使い、限られた字数の中で今までの思いを終結した作品を仕上げられるようにしていくための効果的な方法を考えました。

まず、はじめに作品の完成度をより高めるために、適切な表現方法と詳細な事実を、以下のような複数の視点から見ることです。

- 作文のテーマ決定・構成・下書きなど、各段階で友達同士お互いの作文を読み合い、意見を交換し合い、完成度を高める。
- 友達の作文を読む時間を設定し、作品のよい点を見出し、自分の作品に還元する。
- 友達の作文と自分の作文における事実の述べ方と感想の述べ方などの違いに気付く時間を設定し、それがどのような考え方や理論を用いて読み手に語りかけているのかを考える。

次に、作文を推敲する際、以下のようなチェックカードを作成し、作文を読み合います。

- 自分の意見をわかりやすく伝える工夫ができたか。
- 目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くことができたか。
- 友達の意見や考えを理解することができたか。
- 書く事柄を整理して、文章を組み立てることができたか。
- 適切な表現・技術を使うことができたか。
- 文章の組み立てや表現方法に注意して作文を読むことができたか。

- 既習の漢字や表現方法を効果的に使えたか。
- 常体・敬体の統一や段落を変える際の改行の仕方が正しいか。

最後に、教師が児童の作品を最終的に推敲していく際には、倒置法・比喩などの技法についても積極的に支援します。その際には、表現や技法の適切さだけでなく、ひとりひとりの表現のよさや様々な工夫などにも着目し、評価賞賛することが大切です。

次のような計画を立て、11時間扱いで作文指導を行いました。

- 1 小学校生活で心に残っている出来事や思い描いている夢を思い出し、書き出す。
- 2 テーマごとにグループを組み、出来事や夢についてできる限り具体的に話し合う。
- 3 構成メモを作る。
- 4 お互いの構成メモについて話し合う。
- 5 話し合いを基に構成を決定する。
- 6 下書きをする。
- 7 お互いの下書きについて読み合う。
- 8 グループでの読み合いを基に推敲する。
- 9 清書をして各自で推敲する。
- 10 誤字脱字・文章表現などに注意し、お互いに読み合う。
- 11 グループごとに作品を発表し合い、最終確認をする。(作文の出来上がり)

通常、児童にとっての作文学習は、他の学習内容に比べて意欲的とはいいがたいですが、以上のような方法を取るにより、児童の学習意欲が格段と高まり、大変内容の濃い作品が出来上がったことは事実です。